

# 2017年12月期 中間決算説明会

**2017年12月4日**  
**市光工業株式会社**

# 目次

---

- 2017年12月期 中間業績概要
- 2017年12月期業績見通し（2017年4月から2017年12月まで）
- 中期経営計画（2017-2022）

# 2017年12月期中間業績概要

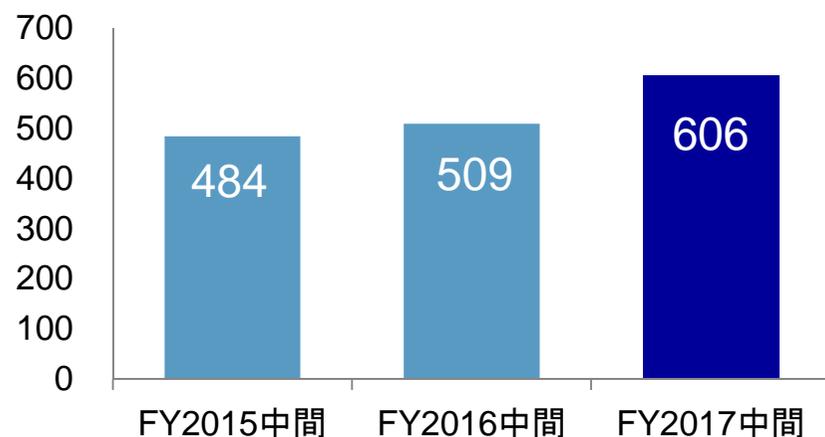
# 2017年12月期 中間連結業績（対前期）

単位：億円/四捨五入

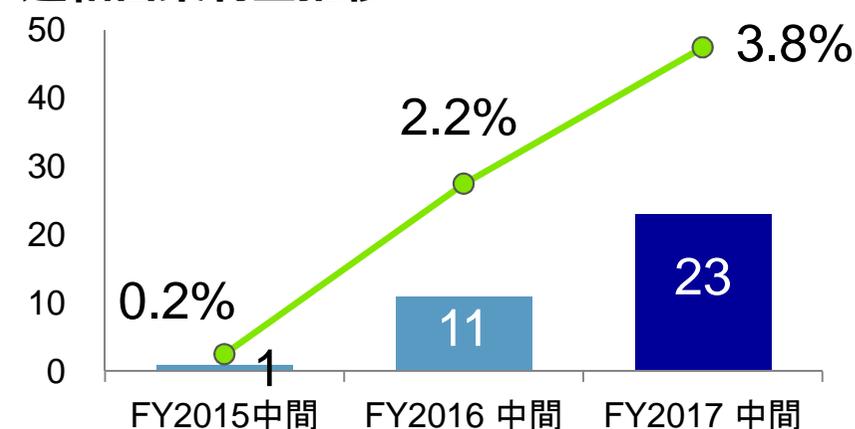
- ◆ 大幅増収・営業利益倍増
- ◆ 営業利益・経常利益・当期利益とも、中間期としては過去最高益

|                     | FY2016 中間 | FY2017 中間 | 増減額 | 増減率    |
|---------------------|-----------|-----------|-----|--------|
| 売上高                 | 509       | 606       | 97  | 19.1%  |
| 営業利益                | 11        | 23        | 12  | 108.6% |
| 営業利益率               | 2.2%      | 3.8%      | -   | -      |
| 経常利益                | 11        | 28        | 17  | 162.8% |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 13        | 22        | 10  | 75.4%  |

連結売上高推移



連結営業利益推移



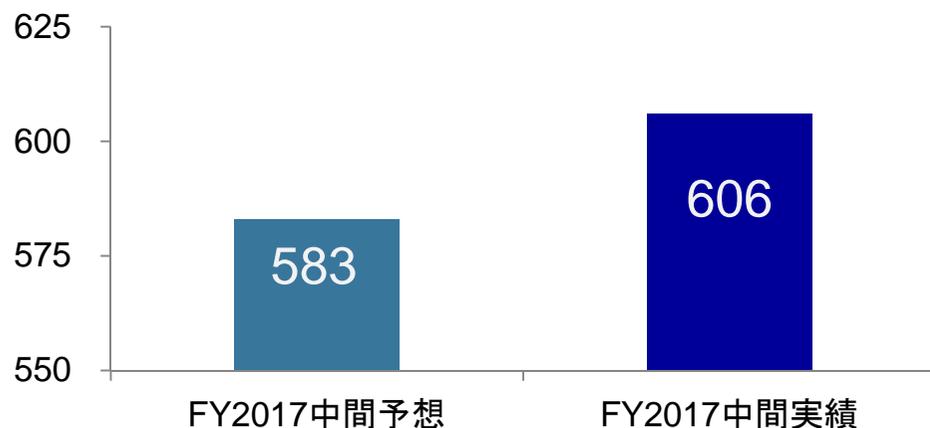
# 2017年12月期 中間連結業績（対予想）

単位：億円/四捨五入

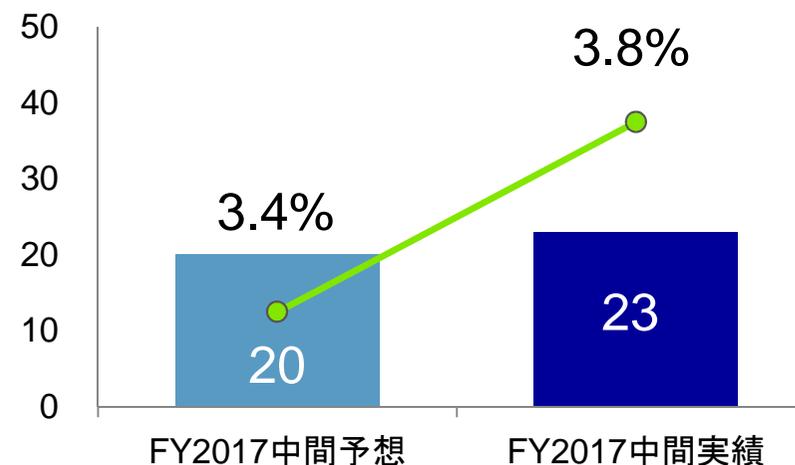
- ◆ 売上高、営業利益とも予想を上回る水準
- ◆ 利益率も予想より改善

|                     | FY2017 中間予想 | FY2017 中間 | 増減額 | 増減率   |
|---------------------|-------------|-----------|-----|-------|
| 売上高                 | 583         | 606       | 23  | 3.9%  |
| 営業利益                | 20          | 23        | 3   | 15.8% |
| 営業利益率               | 3.4%        | 3.8%      | -   | 0.4%  |
| 経常利益                | 23          | 28        | 5   | 20.6% |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 19          | 22        | 3   | 16.4% |

連結売上高推移



連結営業利益並びに売上高比率



# 2017年9月期 拠点別業績

単位：億円/四捨五入

- ◆ 引き続き、国内の売上高・利益が8割弱を占める構造
- ◆ 海外 他（ASEAN+中国+その他）も黒字継続

|       | 日本<br>(市光工業) | 海外   | その他   | 合計   |
|-------|--------------|------|-------|------|
| 売上高   | 470          | 94   | 42    | 606  |
| 営業利益  | 20           | 5    | ▲2    | 23   |
| 営業利益率 | 4.3%         | 5.3% | ▲3.3% | 3.8% |

市光工業：単体ベース（伊勢原・藤岡・ミラー・本社）

海外：インドネシア・マレーシア・タイ・中国

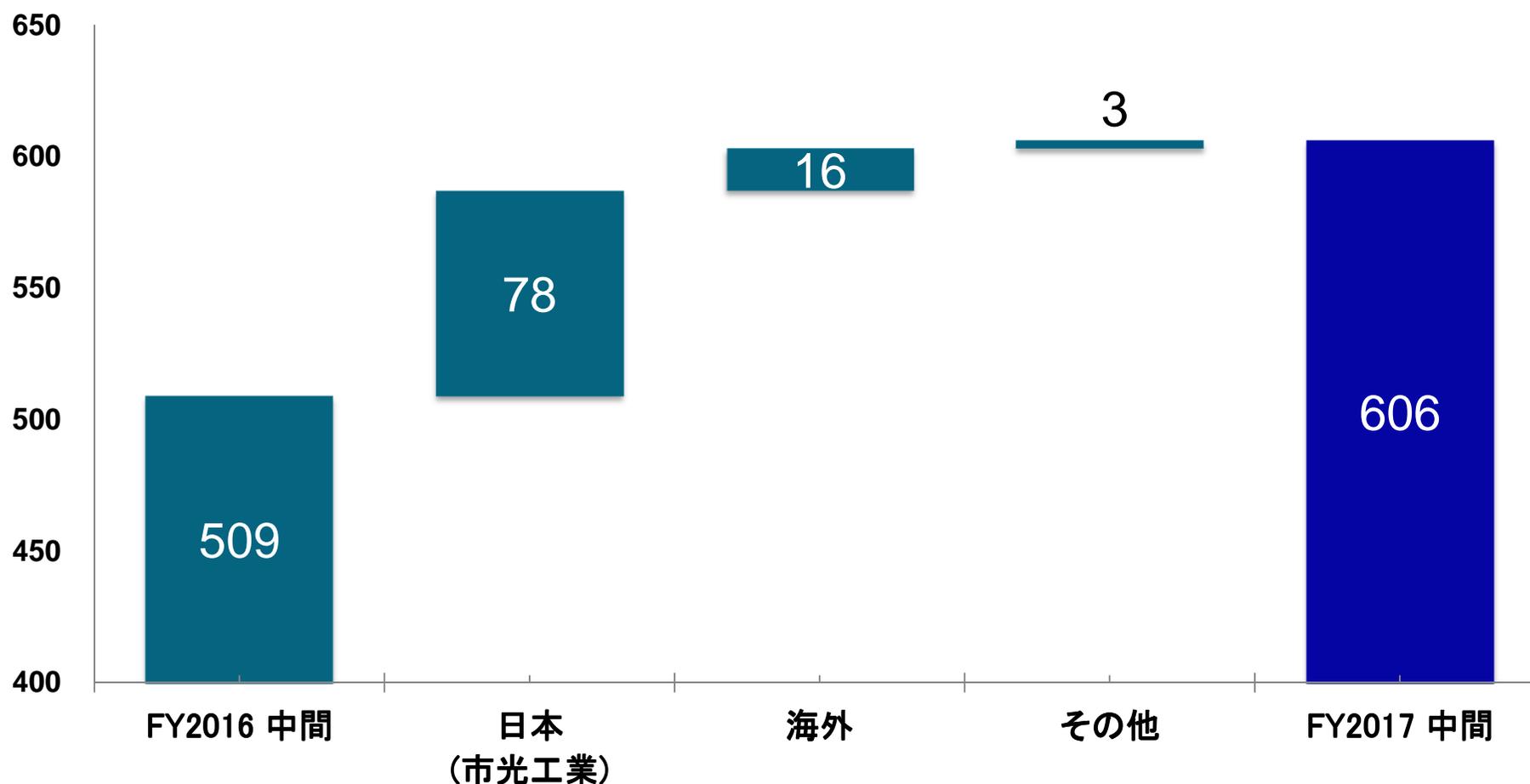
その他：用品事業・バルブ販売

# 2017年9月期 業績のポイント

## 【売上高】

単位：億円/四捨五入

- ◆ 前期比+97億円（+19.1%）増収
- ◆ 順調な国内受注に加え、ASEANなど海外も増収



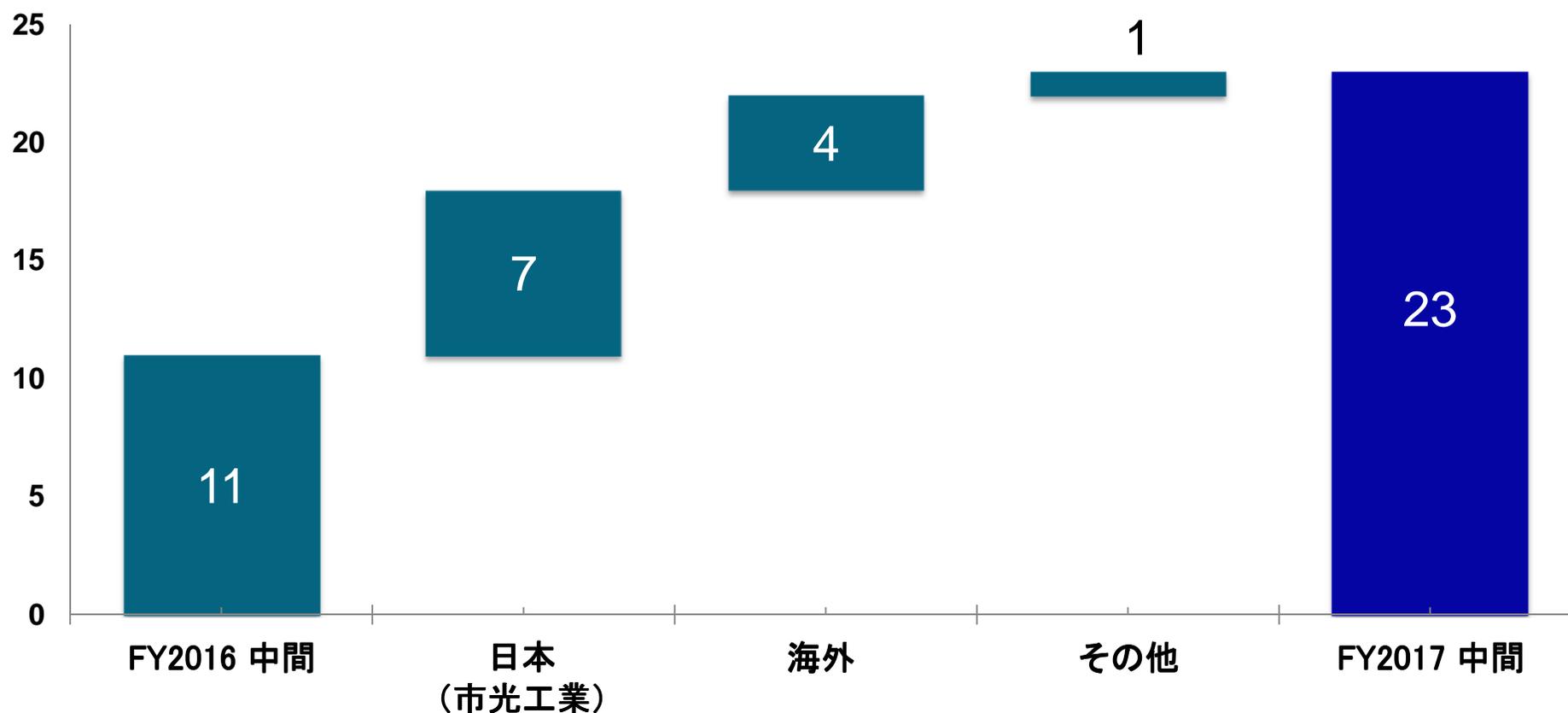
# 2017年9月期 業績のポイント

## 【営業利益】

単位：億円/四捨五入

### ◆ 営業利益は倍増

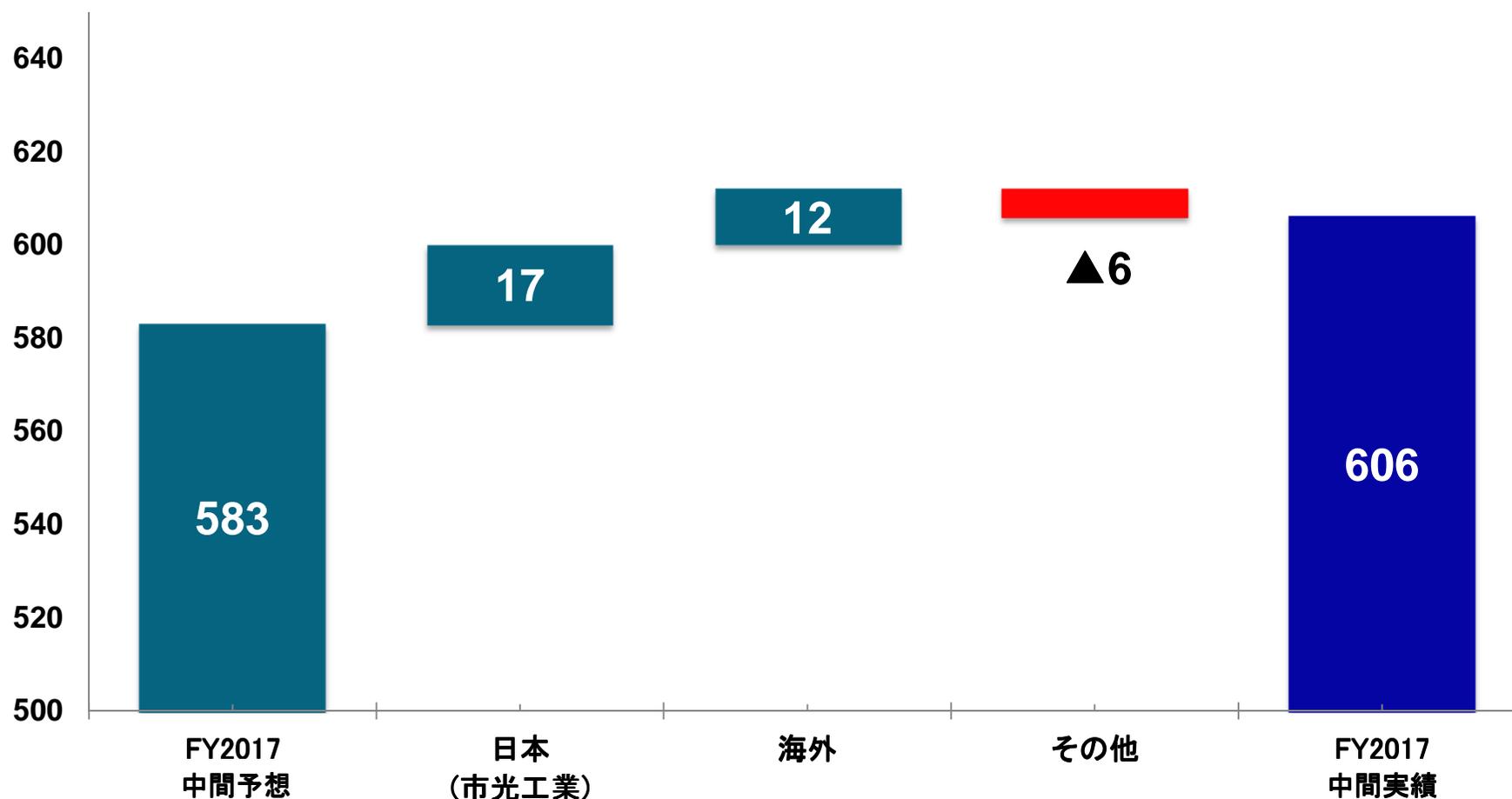
→ 国内増収、海外（ASEAN）の業績改善が主因



# 2017年9月期 業績予想と実績の比較

単位：億円/四捨五入

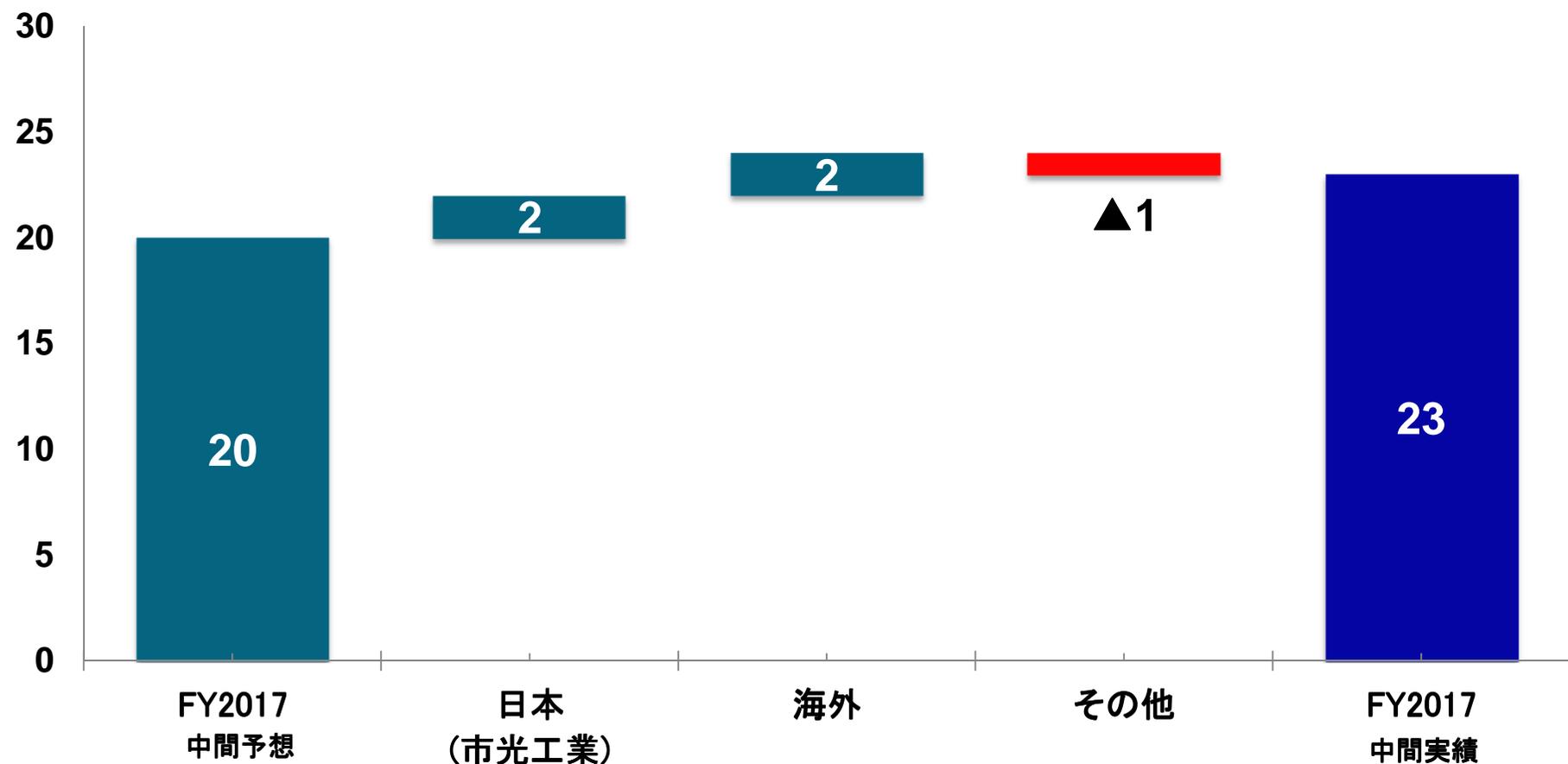
## 【売上高】 国内、ASEANなど海外を要因に増収見込み



# 2017年9月期 業績予想と実績の比較

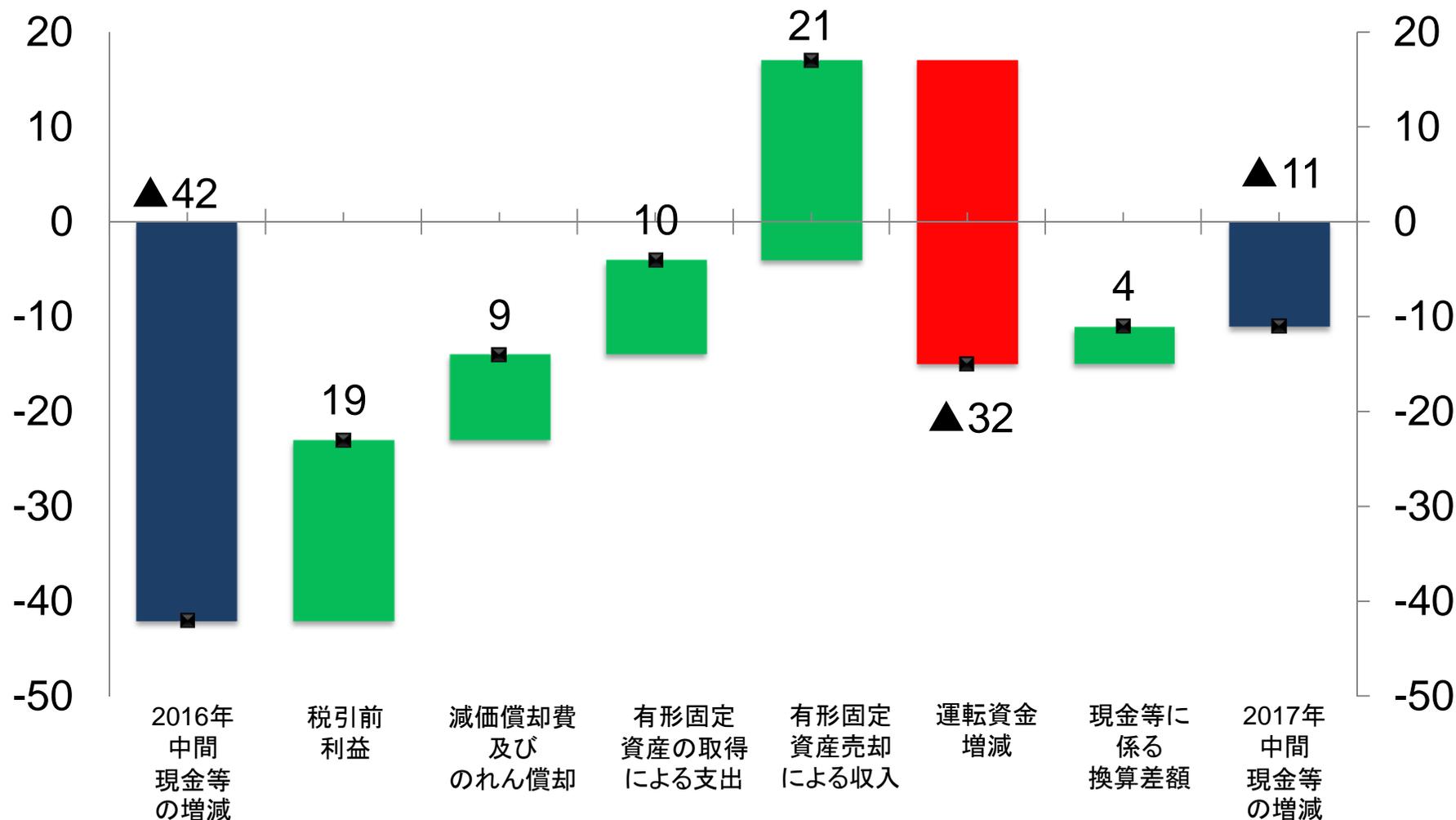
単位：億円/四捨五入

## 【営業利益】 増益要因は国内と海外の増益



# 連結キャッシュフロー（前年同期比）

単位：億円/四捨五入

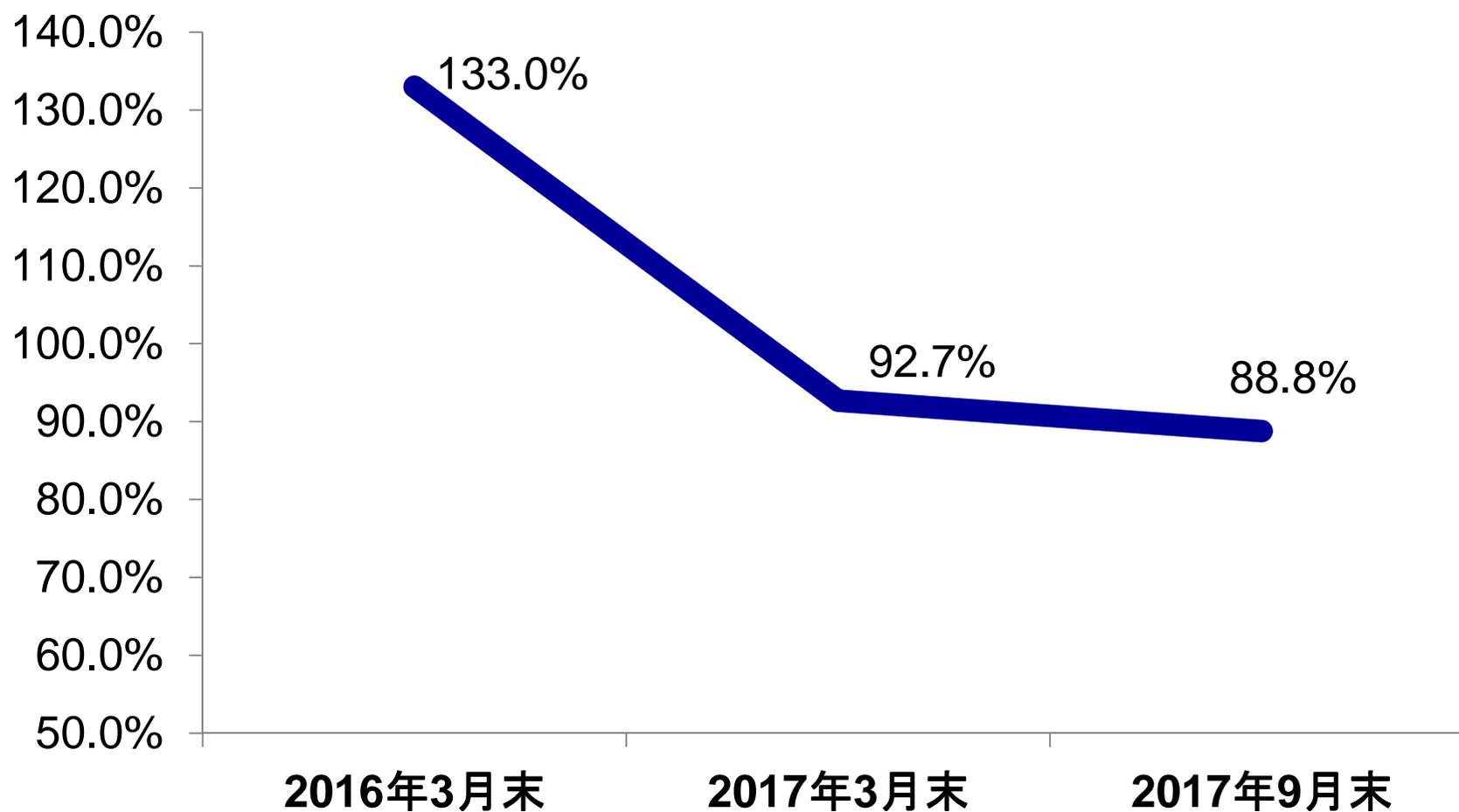


## 連結貸借対照表（前年度期末比）

単位：億円/四捨五入

|               | 2017/3     | 2017/9       | 増減        |
|---------------|------------|--------------|-----------|
| 現金及び預金        | 116        | <b>104</b>   | ▲11       |
| 棚卸資産          | 74         | <b>82</b>    | 8         |
| 有形固定資産・無形固定資産 | 402        | <b>420</b>   | 18        |
| その他           | 377        | <b>408</b>   | 31        |
| <b>資産の部</b>   | <b>969</b> | <b>1,014</b> | <b>46</b> |
| 有利子負債         | 257        | <b>266</b>   | 10        |
| その他           | 423        | <b>435</b>   | 12        |
| <b>負債の部</b>   | <b>679</b> | <b>701</b>   | <b>22</b> |
| 株主資本          | 288        | <b>305</b>   | 17        |
| その他包括利益累計額    | ▲11        | <b>▲5</b>    | 6         |
| 非支配株主持分       | 13         | <b>13</b>    | 1         |
| <b>純資産の部</b>  | <b>289</b> | <b>313</b>   | <b>24</b> |
| <b>D/E比率</b>  | 92.7%      | 88.8%        |           |
| <b>自己資本比率</b> | 28.6%      | 29.6%        |           |

### D/E レシオは着実に改善



# 2017年12月期業績見通し

注記) 2017年12月期は、決算期変更により、2017年4月1日から2017年12月31日の9ヶ月を連結対象期間としています。

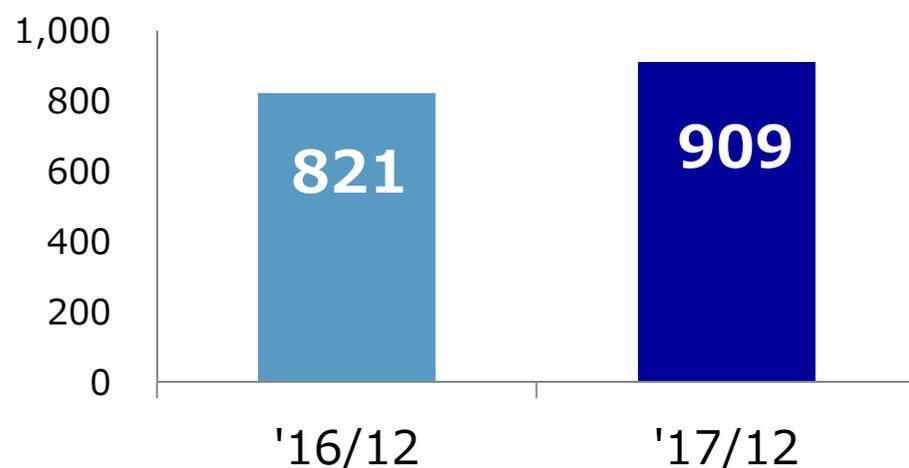
# 2017年4月～17年12月 連結業績見通し

単位：億円/四捨五入

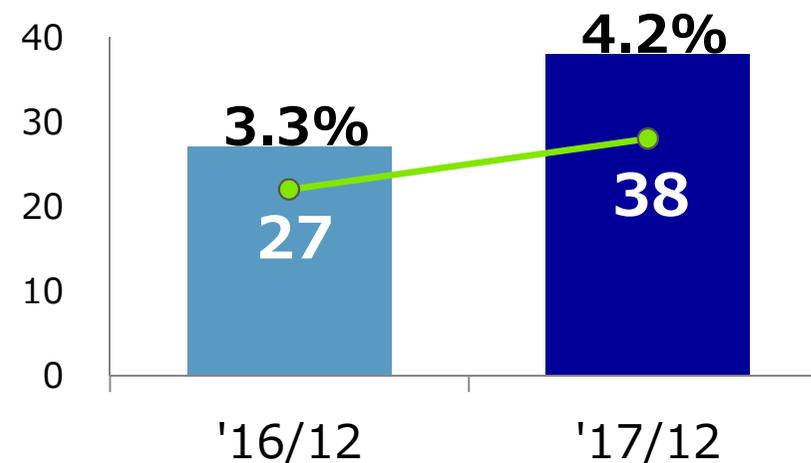
## ◆ 前年同期間比較 増収増益継続

|                     | 16年4月～16年12月<br>実績 | 17年4月～17年12月<br>予想 | 増減額 | 増減率   |
|---------------------|--------------------|--------------------|-----|-------|
| 売上高                 | 821                | 909                | 88  | 10.7% |
| 営業利益                | 27                 | 38                 | 11  | 40.7% |
| 営業利益率               | 3.3%               | 4.2%               | -   | -     |
| 経常利益                | 31                 | 43                 | 12  | 38.7% |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 35                 | 37                 | 2   | 5.7%  |

連結売上高（9ヶ月）



連結営業利益推移（9ヶ月）



# 2017年4月～12月 連結業績通期予想進捗状況

単位：億円/四捨五入

◆ 売上高、営業利益とも業績予想の進捗率は6割を超えており、順調に進捗

|                     | 17年4月～<br>17年9月<br>実績 | 17年10月～<br>17年12月<br>予想 | 17年4月～<br>17年12月<br>予想 | 進捗率   |
|---------------------|-----------------------|-------------------------|------------------------|-------|
| 売上高                 | 606                   | 303                     | 909                    | 66.7% |
| 営業利益                | 23                    | 15                      | 38                     | 60.5% |
| 営業利益率               | 3.8%                  | 5.0%                    | 4.2%                   | -     |
| 経常利益                | 28                    | 15                      | 43                     | 65.1% |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 22                    | 15                      | 37                     | 59.5% |

## 2017年12月期 業績見通しのポイント

---

### 【日本（市光工業）】

- ◆ 売上高の大幅増加継続
- ◆ 高水準の設備投資・研究開発費継続により利益を圧迫するも、増益を確保

### 【海外（ASEAN + 中国）】

- ◆ 海外は生産性改善により増益

# ヴァレオとの統合進捗

---

## R&D シナジー

- ▶ Technology Development Planの共同推進
  - ▶ 光源開発等
- ▶ 両社間での基盤技術の相互活用
  - ▶ さまざまなモジュールでのプラットフォーム等

## 購買 シナジー

- ▶ ヴァレオとの共同購買の加速化
  - ▶ 共同Sourcing Committeeの拡充
  - ▶ 直接材料以外の購入品についても共同購買を開始

## 間接経費の効率化

- ▶ 間接部門の合理化
  - ▶ ヴァレオ ジャパンとの経理機能統合によるシェアード・サービスの開始
- ▶ ITの共有化
  - ▶ ヴァレオとのIT運用を共通化

---

# 中期経営計画 2017-2022

## 中期経営計画における主要方針と目標

### 日本国内及び海外（ASEANと中国）における市場シェアの拡大

#### 方針

国内外における製造・開発拠点の拡張と再構築  
→生産効率とコスト競争力の強化

研究開発人員・機能の増強  
R&Dにおけるヴァレオとのシナジーの具体化  
LCC（低コスト開発拠点）の活用  
→ コスト競争力を維持しながら、高度な製品開発力を強化する



#### 2022年度目標

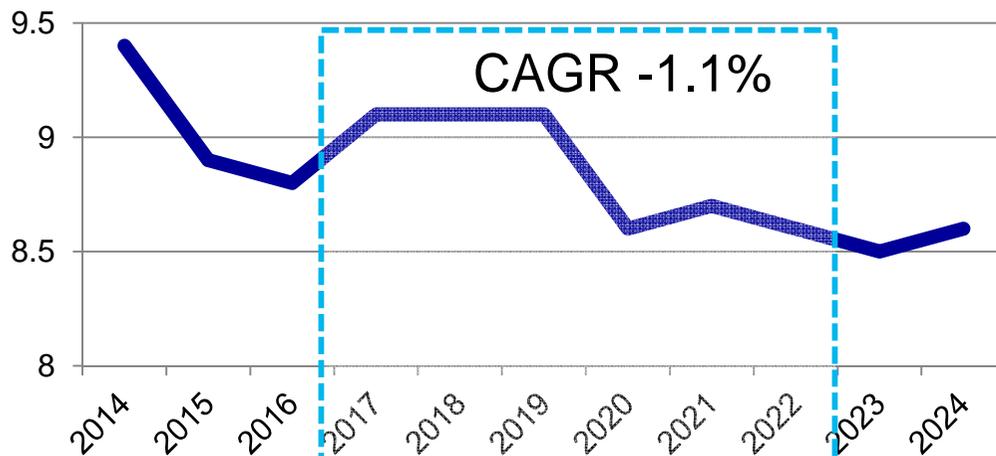
売上高 1650億円 営業利益率 8%

ヴァレオのベンチマークである営業利益率9%を参照値として維持する

# 地域別 自動車生産台数予測

単位:百万台

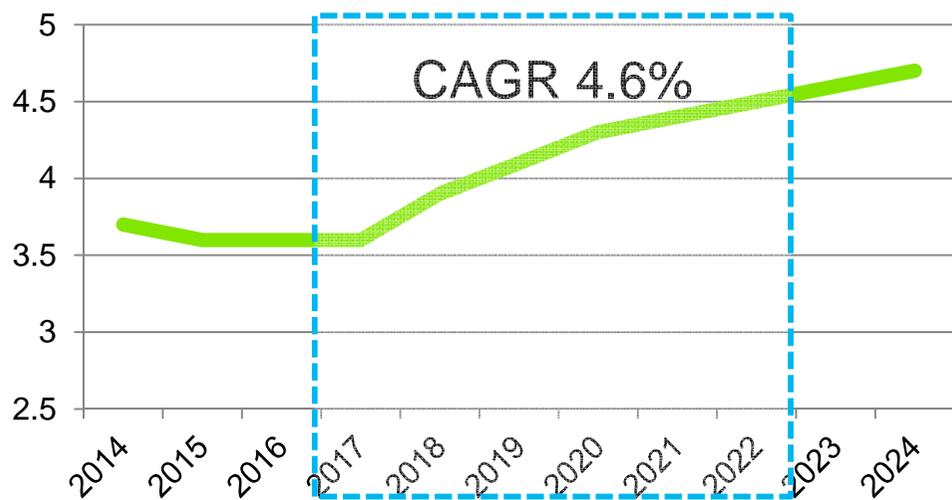
## JAPAN



Source: JD Power (LMC)

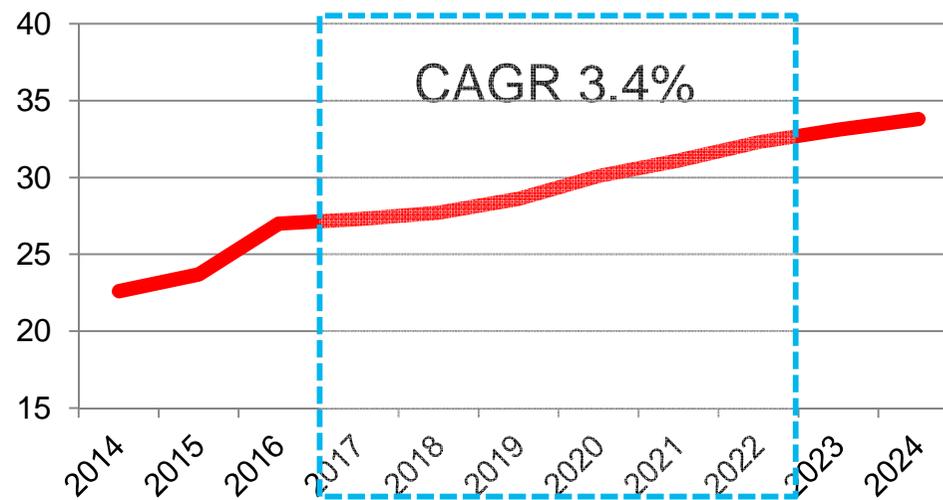
単位:百万台

## ASEAN



単位:百万台

## CHINA

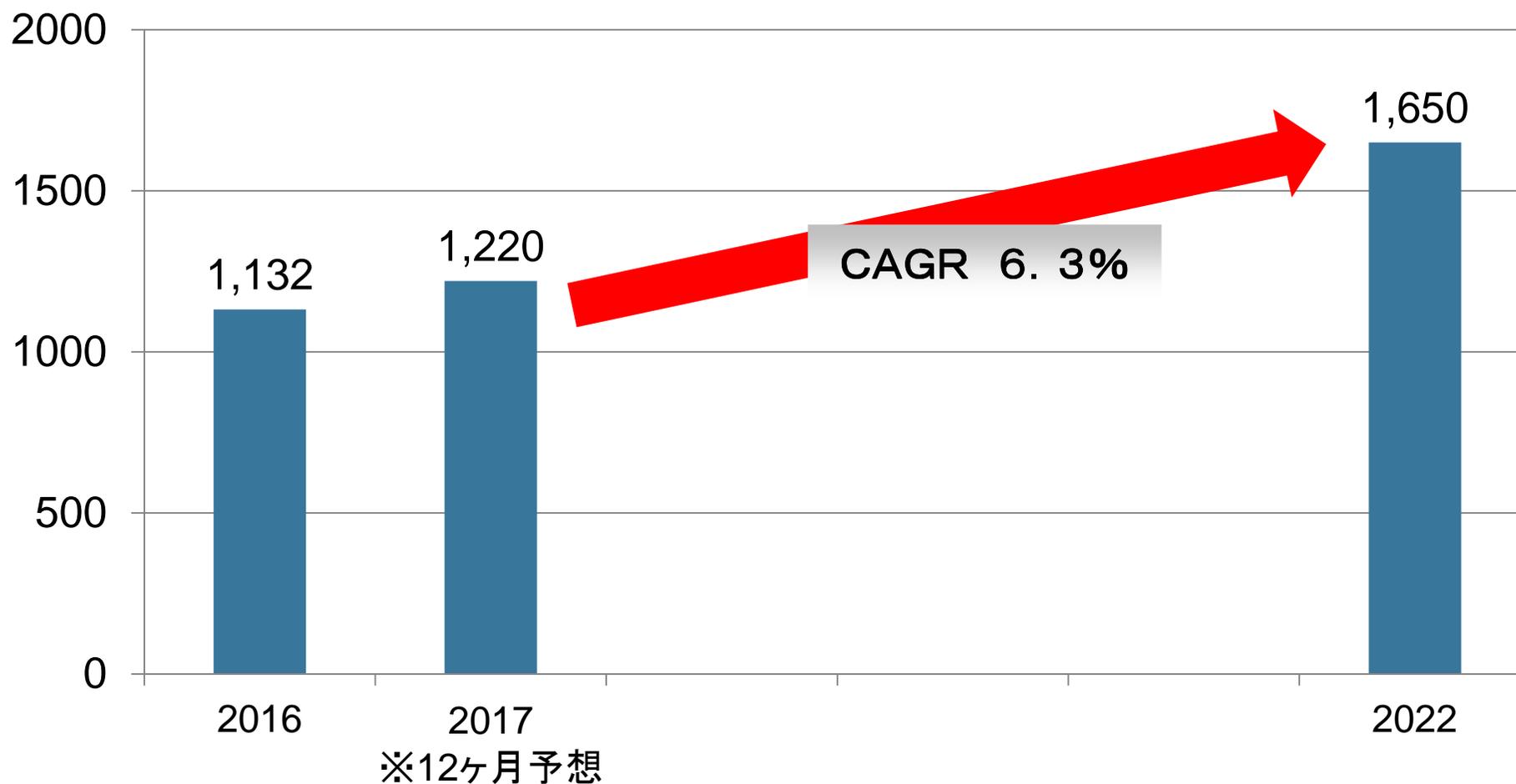


ASEAN : Thailand, Malaysia, Indonesia

# 中期経営計画FY2017 – 2022 主要財務指標

単位：億円

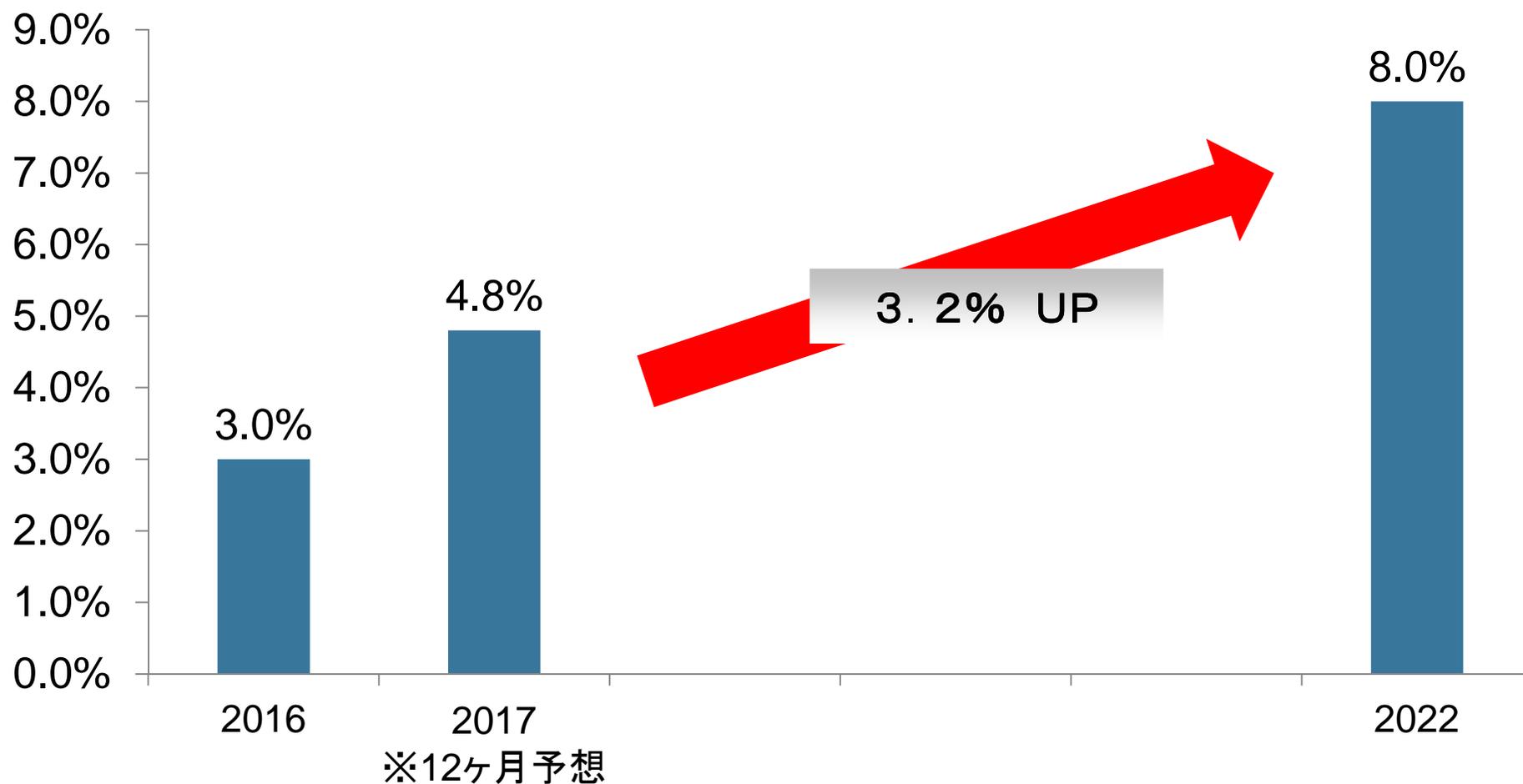
## 売上高



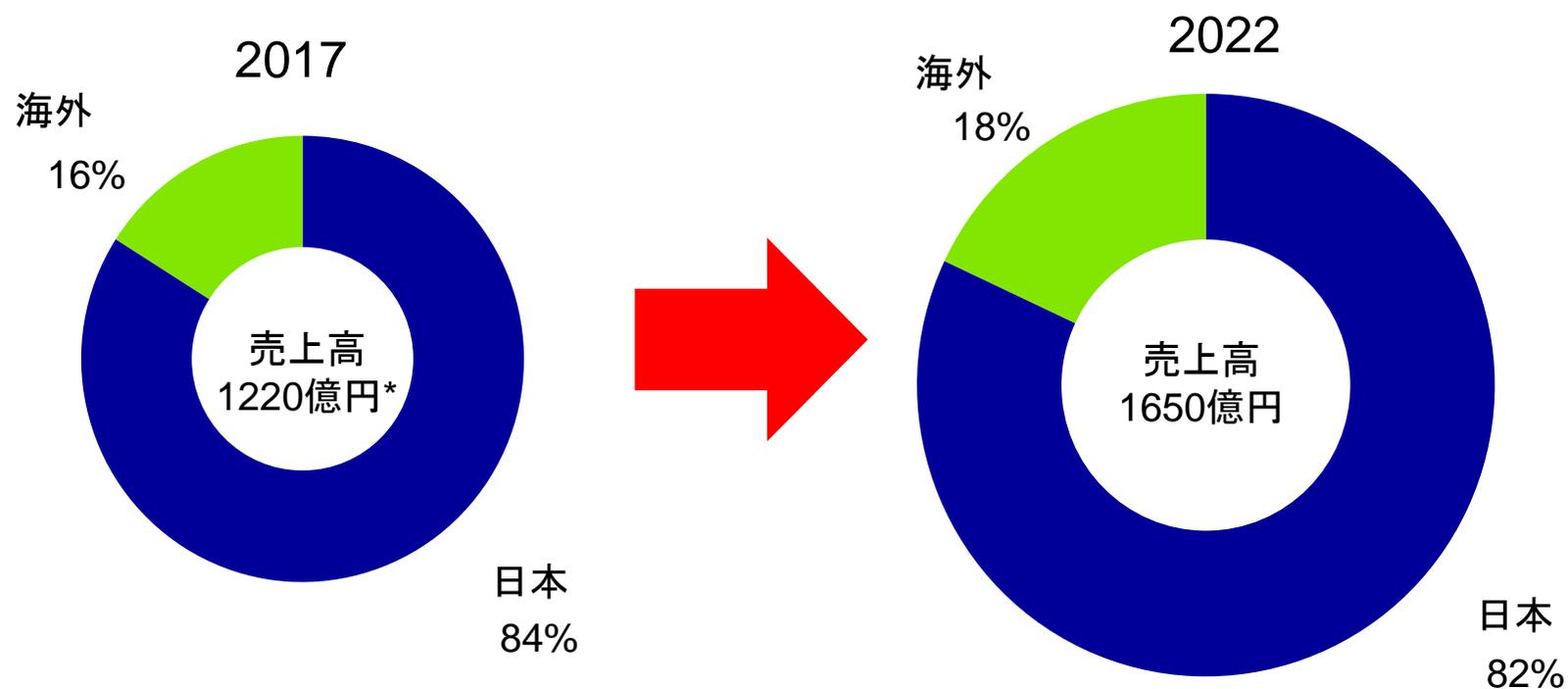
# 中期経営計画FY2017 – 2022 主要財務指標

単位：億円

## 営業利益率



## 今後の売上推移見込み



売上の大幅増加を計画。海外売上も同様に大幅増（構成比率微増）

\*2017年12ヶ月予想

# 国内製造所の神奈川県内新設



各 位

平成 29 年 9 月 1 日

会 社 名 市光工業株式会社  
代 表 者 名 代表取締役会長 オードバディ アリ  
(コード番号 7244 東証第一部)  
問 合 せ 先 経営企画室長 高森 正樹  
TEL 0463-96-1442

## 国内製造所の新設に関するお知らせ

当社は、神奈川県厚木市森の里に自動車用ランプの製造所を新設することを、本日、取締役会で決議致しましたのでお知らせいたします。

この新工場に、伊勢原製造所の生産を徐々に移管いたしますが、リーン生産方式を採用して企業競争力の強化を図り、ヴァレオの開発した革新的な生産技術コンセプトを採用、そのメリットを享受します。この結果、最近の好調な新規受注に裏づけされ、当社中期目標にも謳われているヘッドランプを中心とする事業の成長に繋がってまいります。また、この投資によって耐震基準の最新要件を満たすこととなるだけでなく、事業継続管理（BCM：Business Continuity Management）全般の向上を果たすこととなります。

当社は今後約5年をかけて、新工場生産能力の順次拡大を図ってゆく予定です。森の里と既存製造所のある伊勢原市は近接した位置関係にあることから、ノウハウの移転を確実に行ってまいります。

## 記

### 1. 新製造所の概要

製造所名称： 森の里製造所（仮称）  
投資総額： 164 億円（予定）  
設置場所： 神奈川県厚木市  
敷地面積： 約 64,000 m<sup>2</sup>  
稼動時期： 2019 年 7 月  
生産品目： 自動車用ランプ

### 2. 今後の見通し

本件投資に伴う当連結会計年度（2017 年 12 月期（注））の連結業績に重要な影響はありません。

（注）決算期の変更により今年度は9ヶ月の変則決算になります。

以 上

▶ 投資額164億円の内、土地・建物計116億円については、リース（定期借地・借家）による調達の予定

▶ 資金、費用負担の平準化を図るため

▶ 投資主体としての柔軟性確保のため、リース期間中及び期限を含めて、レッシー（当社）の買取オプションを保有

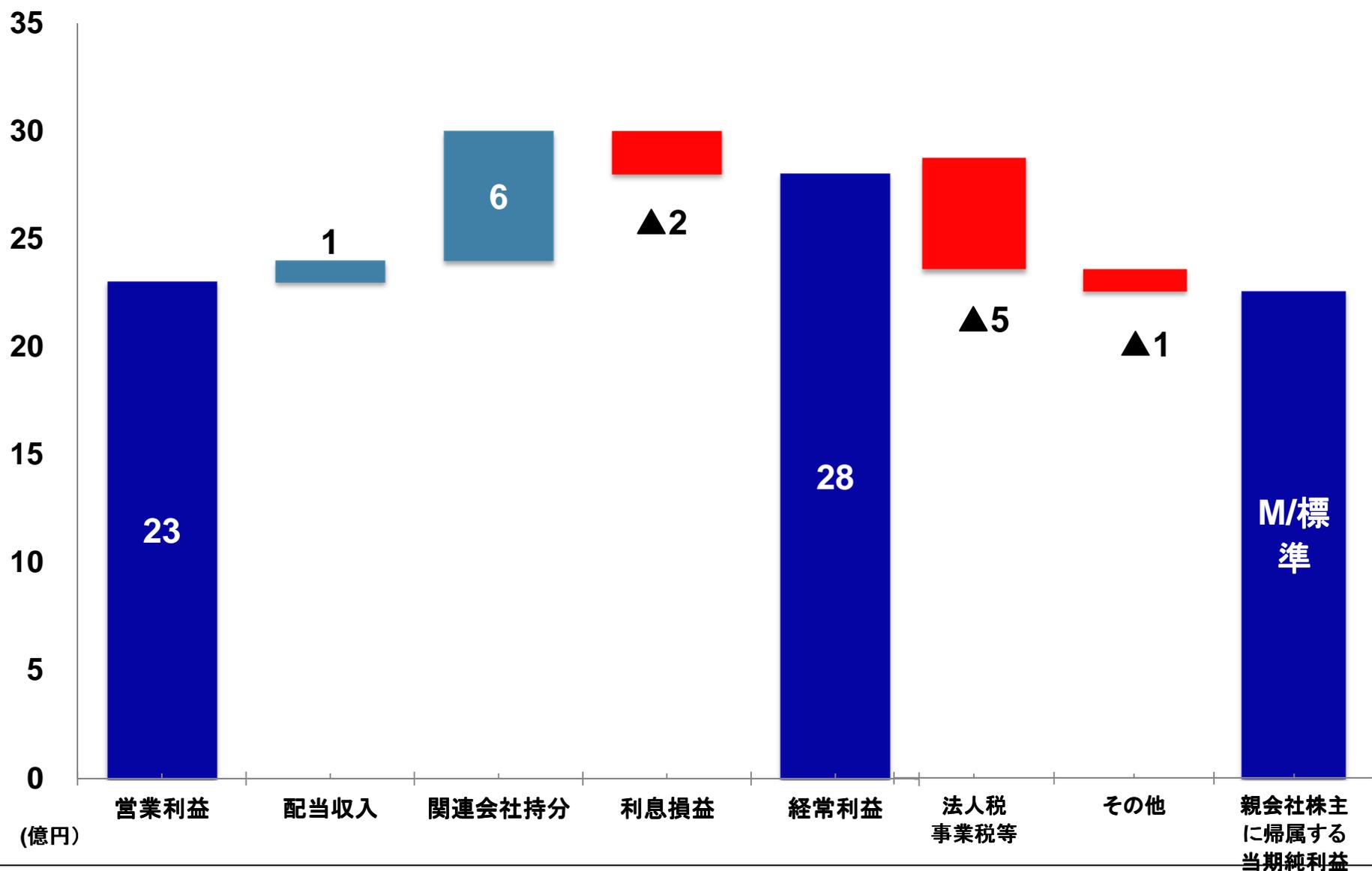
## 今次中期計画のポイント

---

- ◆ 売上は現在の成長トレンドを継続させ、2022年には1,650億円台達成を目指す
- ◆ 営業利益率は2022年に営業利益率 8%達成を目指す  
ヴァレオのベンチマークである営業利益率9%を参照値として維持する
- ◆ ①の収益負荷要因を②の収益改善要因によって凌駕し、2017⇒2022年で営業利益率を約3%改善させる計画
  - ① 収益負荷要因
    - ◆ 投資増加による減価償却、リース料等の負担増
    - ◆ 研究開発を中心とした人件費等の増加
    - ◆ 受注価格競争激化による収益圧迫
  - ② 収益改善要因
    - ◆ 国内の生産性向上
    - ◆ 製品開発力の向上
    - ◆ 以上による国内売上高の増加、シェア拡大
    - ◆ ASEAN収益回復の継続

# (参考) 2017年9月期 業績のポイント

## 【営業利益～経常利益～親会社株主に帰属する当期純利益】



---

## 予測に関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

ご利用に際しては、ご自身の判断で御願ひ致します。資料に記載されている見通しなどに基づいて投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失についても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権は市光工業株式会社に帰属します。いかなる理由によっても当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

**ICHIKOH**  
a Valeo company